

(別紙4)

## 【つくば市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)等を踏まえ、つくば市では目指す児童生徒の姿を「自ら探究しながら学び続ける自律した学習者」とする。本市では、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を教育の最上位目標とした「つくば市教育大綱」を2020年3月に策定した。2020年から始まったGIGAスクール構想は、この教育大綱で目指す姿を実現するための環境基盤である。一人ひとりが、自分で課題や問いを見出し、実験や観察をしたり、調べたり、データを基に分析したり、多様な他者と対話をしたりしながら、自分なりの最適解を導いていく、そんな探究的な学びのプロセスを教育活動の中で繰り返し体験することこそが、自ら探究し学び続ける自律した学習者を育み、一人ひとりの幸せな人生につながると期待している。

#### 2 GIGAスクール構想第1期の総括

本市では、国の進めるGIGAスクール構想を受け、1人1台端末、高速ネットワーク及びクラウド環境が整備された。本市ではその他に、1人1アカウントを付与し、協働学習支援システム、個別デジタル教材等を導入した。本市の目指す教育理念を実現するために、それらの環境を生かし、個別最適な学びと協働学習の往還、そして1人1台端末から得られるデータを活用し、学習を進めてきた。

それらの環境や学習者用端末は、ただ使えばよいのではなく、調査活動、思考活動、協働活動、制作活動、学習の振り返りや定着など、目指す姿や学びのねらい・意図を明確にして、活用している。調査活動では、ICTの強みを生かして、学校の壁を越えた多くの人の意見を収集したり、思考活動では、生成AIを活用して学級では出てこなかった新たな視点からの意見を元に検討したり、協働活動ではクラウド共有することにより、学校の壁を越えいつでもどこでも協働して資料作成等ができるようになった。さらに、制作活動では、物理的な教材調達が困難な場合でも、プログラミング教材やVR/AR

も導入することによって、表現の幅を大きく広げた。学習の振り返りでは、デジタルポートフォリオ的に自分の学びを蓄積していくことができ、学びを可視化できるようになった。手書きの振り返りと比較すると、端末で入力しながら振り返ることでアウトプットの量が増えた。また、アウトプットの量が増えたことによって、深い学びにつながるチャンスとなり、よりよい成果を得ることができた。学習の定着では、9年間分の学習を、自分のペースで学習の履歴を可視化させながら取り組むことができるデジタル教材によって、いつでもどこでも自分の学びたい学習を、自己調整しながら進められるようになり、自律的な学習が実現しつつある。

一方で、「教職員の ICT 活用指導力等の実態調査」では、ICT を効果的に活用しながら学びを進めることに、自信のない教職員もいることがわかる。一人一人の教職員が、自信をもって ICT を校務や授業で活用できるように、教育委員会として支援が必要である。

これまで、本市では、よりよい ICT の活用を支えるために、3つの取組に力を入れてきた。

1つ目は、ICT 支援員の適正配置である。ICT 支援員は、各校において、端末の環境整備支援や授業支援、校務支援などを担う。ICT 支援員のサポートが学校の ICT 活用の促進に大きく貢献した。

2つ目は、探究学習を進めるために、教職員に指導主事が伴走したことである。ICT の効果的な活用場面を共に検討したり、データの活用方法などを見出したり、生成 AI の利活用場面を試行錯誤しながら検討することで、より ICT を効果的に活用できる学びの姿に迫った。

3つ目は、教職員向けの ICT 研修の実施である。対面型研修に加え、オンデマンド型研修、訪問研修、チャット機能を活用した個別研修だけでなく、クラウド上で好事例を共有し、効果的な ICT 活用や活用促進を図った。

引き続き、支援体制の工夫を図っていきたい。

### 3 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用をより一層進めていくために、端末の整備・更新により、児童生徒の1人1台端末環境を引き続き維持していくとともに、1人1台端末の利活用方策として、以下について引き続き検討しながら、進めていく。

#### (1) 教職員の研修の個別最適化

学校での学びが個別最適化を目指しているとともに、教職員への研修も個別最適な研修を実施していく必要がある。令和6年度は、集合型 ICT 研修時に、選択制を取り入れ、基礎体験コース・発展体験コース・質問コース等、受講者が選択できるようにした。今後は更に、個別に研修支援ができるよう、事前に実態調査を行い、ニーズに合った研修を開催するとともに、市主催の ICT 研修だけではな

く、外部のアドバイザーや講師を各学校に招き研修を受講できるように、研修の幅を広げていくことを検討していく。

以上を通して、児童生徒が1人1台端末を日常的に利活用できる教育を行っていく

## (2) ICT 支援員の研修体制の強化

ICT 支援員が、学校特有のソフトウェアの使い方やトラブルシューティング等を研修して習得することが、各校において自信をもって適切に支援することにつながっている。テクノロジーの進化が早い今、教職員だけでなく ICT 支援員にも、学校のニーズに合うスキルを習得する実技研修を教育委員会が実施し、ICT 支援員のスキルアップを図ることが、市全体の ICT 活用促進につながると考える。ICT 支援員の研修体制を強化し、各校での ICT 活用を支えていく。

## (3) 誰一人取り残さない学びの保障のための支援体制の強化

本市には、市内全校に「校内フリースクール」を設置しており、希望する児童生徒の学びの場となっている。校内フリースクールと所属学級をオンラインでつなぐことによって、授業を受けたり、担任の先生とやり取りをしたりすることが可能である。また、自分のペースで学びを進めることができるデジタル教材を導入している。引き続きそれらを効果的に活用するための研修を実施することによって、児童生徒の学びの保障を行っていく。さらには、病気療養中の児童生徒や特別な配慮を要する児童生徒にも、実態等に応じた教育相談や教育支援に1人1台端末をよりよく活用し、誰一人とり残すことなく、学びを保障する環境を整える。

これらの方策により、ICT を効果的に活用できる探究学習や授業を実践し、本市の児童生徒が自ら探究的に学び続ける自律した児童生徒を育み、幸せな人生につながる教育を今後も目指していく。